

南米メルコスールにみる 食品包装・流通事情

食品流通アドバイザー

(公益社団法人 日本包装技術協会 技術参与)

田中技術士事務所 代表 田中 好雄

Y. Tanaka

包装は文化・経済の尺度ともいわれる。昔、日本も木箱、竹かご、新聞紙を包装材料として使用していた時代があった。そして半世紀が過ぎ、包装本来の機能である保護性、利便性、情報伝達性に加え、環境対応(減量化・再利用・再利用)、人への配慮(ユニバーサルデザイン)などが求められるようになった。

包装技術は先進国、開発途上国にかかわらず、その国の産業基盤の中に位置付けられており、重要な役割を果たす。本文では、開発途上国の食品包装・流通に焦点をあて、筆者が関わった事例の中から包装材料の加工技術、食品産業への利用、市場流通について述べてみたい。

メルコスール(南米・南部共同市場)は1991年にパラグアイのアスンシオンでアルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイ、ブラジルの4カ国が調印し、2006年ベネズエラが加入した。域内での関税撤廃と域外共通関税を実施することを目的として発足した。

輸送包装は、輸出入、卸売市場での流通が主流であり国によって格差がある。段ボールより木箱が多く使われ、鮮度、品質、衛生面の管理が不足している。消費者包装はスーパーマーケットが主流でありそのレベルはかなり高い。しかしながら国によって包装材料の入手が困難であることと包装単位が大きい傾向がある。メルコスールではアルゼンチン、ブラジルが比較的進んでおり、段ボール、びん、缶、フレキシブルパッケージなどの包装材料と、これらを使用した商品の輸出が盛んであり、各国独特の商品がスーパーマーケットで売られている。

メルコスールの物流は長距離の点輸送が主流

で域内面積が広大であるために、山脈、河川等の地形で通過地点が限定される。したがってブラジル、アルゼンチンなどの大都市間の物流が船



トマトの選果作業(ブエノスアイレス市場)

舶を利用して行われており、内陸輸送としてはトラックが主に使われる。しかしながら関税手続きなどに多くの時間を要し、密輸などの不法な取引が後を絶たない。

食品包装・流通の課題として挙げられるのは、包装材料の強度不足、荷扱いの荒さ、道路・輸送手段の不備、倉庫での保管状態が適切ではない、ユニットロード化がなされていない、包装設計技術、包装・物流システムの標準化の未達などが挙げられる。包装・物流標準化のためのアプローチとして、包装材料試験方法の標準化、包装材料の規格基準の設定、包装材料の加工技術、品質の向上、運搬車両マニュアルの標準化、マテハン、保管、荷扱いの基準設定、ユニットロード、バルク輸送作業手順化などが挙げられる。

開発途上国は包装・物流のインフラが整備されておらず、多くの面で弊害を引き起こしている。先進国からの技術転移を待つのもひとつの方法であるが、一朝一夕に問題は解決できるものではない。しかしながら、開発途上国の人々も知恵を働かせ、お互いに努力し、協力しながら徐々にレベルを上げてきている。現状に目をそむけることなく、1歩1歩目的に向かって歩みを進めていくことが良い結果を得ることにつながる。